

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】令和 3 年 9 月 9 日 (2021.9.9)

【公開番号】特開 2020-27162 (P2020-27162A)

【公開日】令和 2 年 2 月 20 日 (2020.2.20)

【年通号数】公開・登録公報 2020-007

【出願番号】特願 2018-151367 (P2018-151367)

【国際特許分類】

G 0 3 B 17/14 (2021.01)

G 0 2 B 7/02 (2021.01)

【F I】

G 0 3 B 17/14

G 0 2 B 7/02 D

G 0 2 B 7/02 Z

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 7 月 29 日 (2021.7.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第 1 マウント部を有するカメラ本体に対して着脱可能なアクセサリであって、  
前記アクセサリを前記カメラ本体に装着した際に前記第 1 マウント部と係合する第 2 マウント部と、

前記アクセサリを前記カメラ本体に装着した際に前記カメラ本体と接触することが可能な弾性部材と、

前記弾性部材を保持する筒部材と、を有し、

前記筒部材には、前記アクセサリを前記カメラ本体に装着した際に前記弾性部材の一部が入ることが可能な凹部が設けられている、

ことを特徴とするアクセサリ。

【請求項 2】

前記凹部は環状凹部であって、前記環状凹部の内径は、前記第 2 マウント部の外径よりも大きい、

ことを特徴とする請求項 1 に記載のアクセサリ。

【請求項 3】

前記凹部は環状凹部であって、前記環状凹部の外径は、前記弾性部材の外径よりも小さい、

ことを特徴とする請求項 1 または 2 に記載のアクセサリ。

【請求項 4】

前記第 2 マウント部の前記筒部材側の面が切削あるいは研磨されている、

ことを特徴とする請求項 1 乃至 3 のいずれか一項に記載のアクセサリ。

【請求項 5】

前記アクセサリが前記カメラ本体から取り外されている際に前記凹部の底面から前記弾性部材が離れている、

ことを特徴とする請求項 1 乃至 4 のいずれか一項に記載のアクセサリ。

【請求項 6】

前記アクセサリを前記カメラ本体に装着した際に前記凹部の底面に前記弾性部材が接触する、

ことを特徴とする請求項 1 乃至 5 のいずれか一項に記載のアクセサリ。

【請求項 7】

前記アクセサリが前記カメラ本体から取り外されている際に前記凹部の底面に前記弾性部材の第 1 部分が接触している、

ことを特徴とする請求項 1 乃至 4 のいずれか一項に記載のアクセサリ。

【請求項 8】

前記アクセサリが前記カメラ本体から取り外されている際に前記凹部の底面から前記弾性部材の第 2 部分が離れており、

前記アクセサリを前記カメラ本体に装着した際に前記凹部の底面に前記第 1 部分及び前記第 2 部分が接触する、

ことを特徴とする請求項 7 に記載のアクセサリ。

【請求項 9】

前記アクセサリを前記カメラ本体に装着した際に前記弾性部材が前記カメラ本体に設けられた金属部材に接触する、

ことを特徴とする請求項 1 乃至 8 のいずれか一項に記載のアクセサリ。

【請求項 10】

前記凹部には前記筒部材の内部あるいは外部に貫通する貫通部を有する、

ことを特徴とする請求項 1 乃至 9 のいずれか一項に記載のアクセサリ。

【請求項 11】

前記アクセサリの光軸に直交する断面における、前記凹部の径方向の長さは、前記弾性部材が前記筒部材によって保持されている位置の径方向の長さよりも短いことを特徴とする請求項 1 乃至 10 のいずれか一項に記載のアクセサリ。

【請求項 12】

前記アクセサリは複数のレンズを有するレンズ装置である、

ことを特徴とする請求項 1 乃至 11 のいずれか一項に記載のアクセサリ。

【請求項 13】

前記アクセサリは複数のレンズを有するレンズ装置と前記カメラ本体との間に装着可能なアダプタである、

ことを特徴とする請求項 1 乃至 11 のいずれか一項に記載のアクセサリ。

【請求項 14】

前記カメラ本体と、

請求項 12 に記載のアクセサリと、を備える、

ことを特徴とする撮像装置。

【請求項 15】

前記カメラ本体と、

前記レンズ装置と、

請求項 13 に記載のアクセサリと、を備える、

ことを特徴とする撮像装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

上記の目的を達成するために本発明のアクセサリは、

第 1 マウント部を有するカメラ本体に対して着脱可能なアクセサリであって、

前記アクセサリを前記カメラ本体に装着した際に前記第 1 マウント部と係合する第 2 マウント部と、

前記アクセサリを前記カメラ本体に装着した際に前記カメラ本体と接触することが可能な弾性部材と、

前記弾性部材を保持する筒部材と、を有し、

前記筒部材には、前記アクセサリを前記カメラ本体に装着した際に前記弾性部材の一部が入ることが可能な凹部が設けられている、

ことを特徴とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

レンズマウント 11 とレンズ鏡筒 14 の位置決めと固定について説明する。レンズマウント 11 は、レンズ鏡筒 14 をスラスト方向（光軸方向）に位置決めするレンズ鏡筒当接面（取付面 11 d）を有している。レンズ鏡筒 14 には、レンズマウント 11 をスラスト方向に位置決めするレンズマウント当接面 14 a を有している。レンズ鏡筒当接面（取付面 11 d）をレンズマウント当接面 14 a に当接させた状態で、レンズマウント 11 を不図示のビスでレンズ鏡筒 14 に固定することで、レンズマウント 11 とレンズ鏡筒 14 の位置決めと固定を行うことができる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

この結果、環状弾性部材 12 の光軸方向の位置は、環状弾性部材 12 の把持部 12 b が光軸方向において、外装環 13 の環状弾性部材側当接面 13 a とレンズマウント 11 の取付面 11 d とで圧縮して挟まれることにより決まる。一方、環状弾性部材 12 の径方向の位置は、外装環 13 の内周面 13 b とレンズマウント 11 の側周面 11 e とで挟まれることにより決まる。より詳細には、環状弾性部材 12 が光軸方向において環状弾性部材側当接面 13 a とレンズマウント 11 の取付面 11 d とで圧縮して挟まれる結果、環状弾性部材 12 が径方向に広がる。そして、環状弾性部材 12 が径方向において内周面 13 b と側周面 11 e とで挟まれることになる。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0047

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0047】

図 4 及び図 5 に示すように、環状空隙部 25 の光軸直交方向の幅は環状弾性部材 22 の光軸直交方向の幅と同じである。そして、図 4 に示すように、交換レンズ 20 がカメラ本体 100 から取り外されている際には、環状空隙部 25 の底面に環状弾性部材 22 の一部（第 1 部分）22 b が接触している。より詳細には、交換レンズ 20 がカメラ本体 100 から取り外されている際には、環状弾性部材 22 の当接面 22 c が、環状空隙部 25 の底面の一部である外装環 23 の弾性部材当接面 23 a に接触している。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0048

【補正方法】変更

【補正の内容】

## 【 0 0 4 8 】

そして、図 5 に示すように、交換レンズ 2 0 がカメラ本体 1 0 0 に装着されている際には、環状空隙部 2 5 の底面に環状弾性部材 2 2 の一部（第 1 部分）2 2 b に加えて、環状弾性部材 2 2 の一部（第 2 部分）2 2 d も接触する。より詳細には、交換レンズ 2 0 がカメラ本体 1 0 0 に装着されている際には、当接面 2 2 c が当接面 2 3 a に当接する。そして、環状弾性部材 2 2 の当接面 2 2 d が、環状空隙部 2 5 の底面の一部である外装環 2 3 の弾性部材当接面 2 3 b に接触している。

## 【 手 続 補 正 7 】

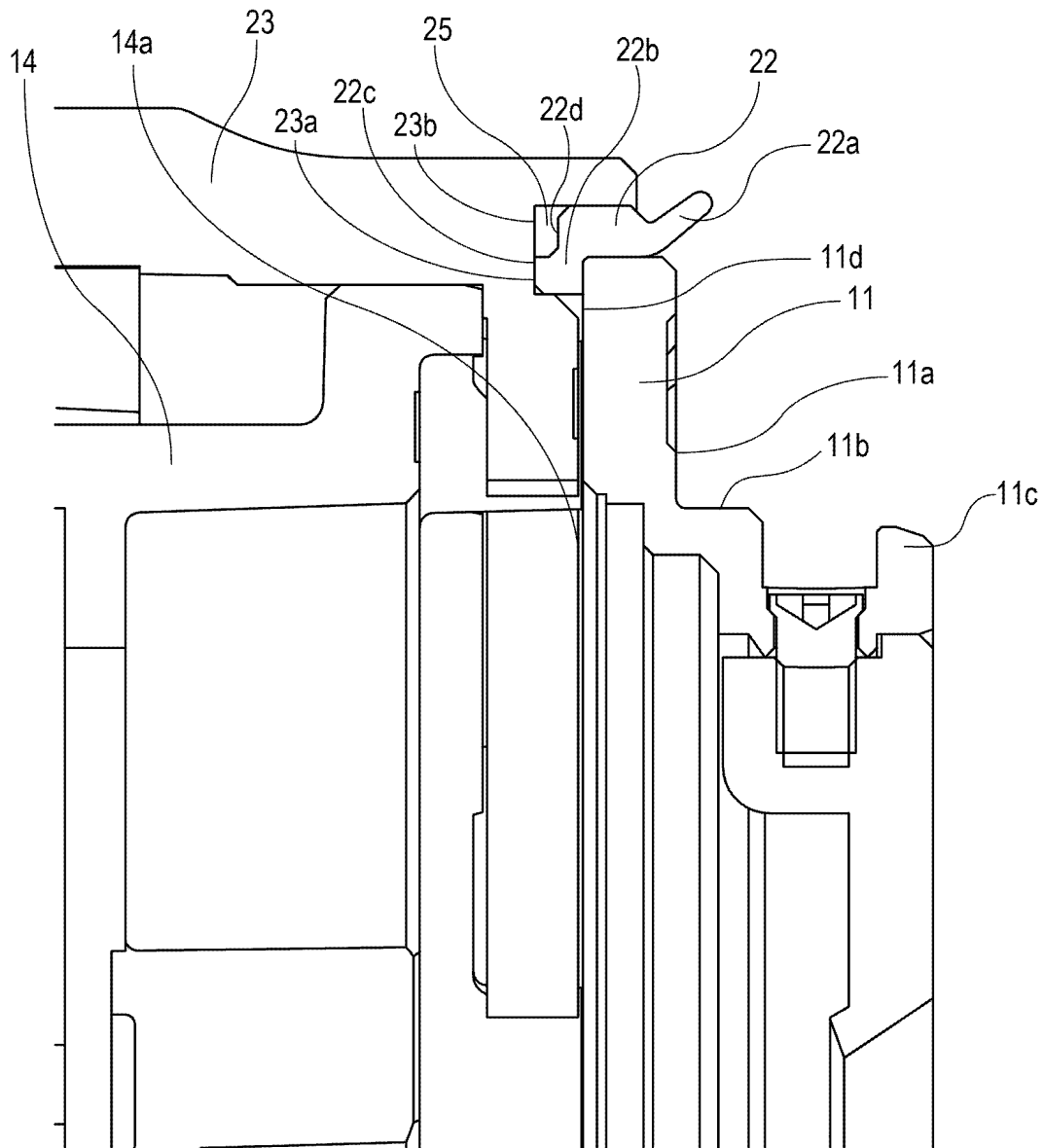
【 補 正 対 象 書 類 名 】 図 面

【 補 正 対 象 項 目 名 】 図 4

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 図 4 】



【 手続補正 8 】

【 補正対象書類名 】 図面

【補正対象項目名】図 5  
【補正方法】変更  
【補正の内容】

